

## 「まちづくり提案事業助成」助成決定事業の概要(上町台地マイルドHOPEゾーン事業)

団体名	直木三十五記念館
代表者名	小辻 昌平
事業のテーマ・タイトル	連続文化講座「可能性のまち上町台地」の実施
主旨	直木三十五記念館が単なる直木三十五の個人業績の顕彰に止まらず文化情報の発信拠点と市民参加型ミュージアムとしての機能を活用し、上町台地の文化を、上方歌舞伎、落語、学び、観光、文学というテーマに基づき連続講座を開催することにより上町台地の魅力と可能性を再発見する。
内容	上町台地の可能性を記念館を中心に連続講座により再発見する。 ①中寺町にねむる上方歌舞伎の役者の墓を河内厚郎先生とめぐるまち歩きと講演会 ②落語ゆかりの上町台地をさぐるまち歩き ③「学び」の舞台上町台地 芥川賞作家 玄月氏講演会 ④ティーチイン「観光として上町台地文学スポット巡りの可能性」講師 DSJ取締役 小田切 聡 ⑤対談「可能性の文学」を読み解きながら上町台地を考える オダサク倶楽部 井村 身恒×直木三十五記念館 小辻 昌平

団体名	應典院寺町倶楽部
代表者名	扇谷 順介
事業のテーマ・タイトル	上町台地アートネットワーク構築プロジェクト
主旨	都市部においては、もはや「まちづくり」の担い手は、その地域に居住している人々だけではない。したがって、多様な外来者と地域の人々との協働による新たな「まちづくり」のあり方を模索する。その手段の中でアートに焦点を当て、とりわけ演劇(劇場、作品)の観点から「まちづくり」ネットワークを構築していく検討の場と機会を設ける。そして、年間50本の演劇公演の実績を持つ應典院発の上町台地でのアートネットワークのシステムづくりを目的とする。
内容	上記の主旨に基づき、以下の事業を展開する。具体的には、若手演劇人や高校生、学校教員、研究者等からまちとアートのヒアリング、演劇の実践者を招いたシンポジウム、應典院で開催される学術会議でのフィールドワークの企画運営の3つである。7月からHPF及び関係者のヒアリング(視察を含む)を開始し、8月に行う「space×drama2007クロージングトーク」では、演劇実践者の声を地域に届ける場として位置づける。11月には應典院で開催される「日本アートマネジメント学会」にて、上町台地境界のアート施設等のフィールドワークの企画・運営に当たる。この間、應典院では、本事業の関連企画として、平田オリザ氏による「若手演劇人のための基礎講座」(6月から毎月1回)、パントマイムワークショップ「ヨロコブカラダ」(4月から月2回)が開催されていることから、それぞれの取り組みの内容も取りまとめつつ、1月の「コモンズフェスタ」期間中にてシンポジウムを行い、本事業の最終成果として報告する。

団体名	空堀商店街限界長屋再生プロジェクト(からほり倶楽部)
代表者名	六波羅 雅一
事業のテーマ・タイトル	空堀限界を題材にした演劇制作とまちづくりのタイアップ・チャレンジ
主旨	からほり倶楽部は2001年以来、空堀商店街限界を中心とした地域で、路地や長屋など近代大阪の都心居住の名残を残す空間と、そこでの暮らしや地域のつながりに着目し、それらを再生・活用したまちの継承・発展に取り組んできました。そして、空堀限界への関心を高めるとともに、地域住民にとっても自らの地域の歴史や暮らしの文化などを振り返る機会を提供してきました。また、地域住民をはじめとする多くの人たちとのネットワークを築いてきました。一方、長屋再生にスポットが当たることで、私たちの活動は建築や都市計画といった特定の分野に限定して語られることが多いのも事実です。そこで、2006年秋にはマイルドHOPEゾーン協議会の支援も得ながら、歴史や文学などさまざまな視点でまちを切り取る「まちの学校」を開催し、新たなまちの魅力を掘り起こすとともに、歴史ファンや文学ファンなどに空堀限界へ足を運んでもらうことで、まちに関心を持つ層をより広げることができました。今年、劇団10×10×10(TENTENTEN)による空堀限界とそこでの人々の暮らしを背景にした演劇を制作してもらい、10月下旬に開催予定のからほりまちアート2007において上演する予定で、「まちの学校」での経験を活かしながら、演劇という手段でまちを垣間見る取り組みを試行しようとしています。その取り組みをより深め、劇団スタッフと観客をまちに取り込んでいく仕掛けを配することで、一層効果を高めたいと考えます。
内容	①演劇の舞台背景となる空堀限界マップ(ロケーション・マップ)の作成 演劇のストーリーにもとづき、その舞台背景やストーリーに影響を与えた場所などを記したマップ(ロケーション・マップ)を作成し、観客を舞台上の“空堀”から現実の空堀へ導きます。 あらすじや脚本作成、舞台稽古などの演劇プロセスを通じて、脚本や演出の担当者には実際にまちを歩いてもらい、住み手と出会う機会を設けます。そしてストーリーの組み立てに併行しながら担当者への聞き取りを行い、ストーリーの舞台や背景となった場所、彼らの印象に刻まれたまちの風景などをマップに落とし込んでいきます。 マップは、公演の事前PRや開演時の配布に使用するほか、マップにはあらすじも記載することで、終演後も演劇創作を通じてまちへ来訪する仕掛けとなるようにします。 ②ディレクターズ・ツアーの開催 演劇創作に当たった脚本や演出の担当者、役者とからほり倶楽部メンバーの案内により、演劇の舞台あるいはモチーフとなった場所を訪ねるツアーを実施します。ツアーは演劇終演後ないしは翌日、開催することで、ストーリーが鮮明に残っている観客をその背景となった現実の空間＝空堀のまちへと誘います。 ディレクターズ・ツアーを演劇に併催することで、脚本づくりや演出をする際にまちの何にインスピレーションを受けたのか、あるいは、役者がどうセリフや動きにリアルさを加味できたのかなど、ストーリーをより深く咀嚼することが可能になるほか、ツアーを念頭に置くことで“よそ者”である劇団がよりまちのディテールを理解しようとすることも期待されます。さらに、観客を舞台からまちへ誘い出し、空堀限界の街並みと住み手の暮らしにじかに触れてもらうことを狙います。

団体名	日本学生支援機構大阪日本語教育センター「歌と踊りのフェスティバル実行委員会」
代表者名	唐澤 清司
事業のテーマ・タイトル	上町台地に集おう！ 留学生、歌と踊りのフェスティバル
主旨	主に大阪地区で勉強している留学生の母国の民俗舞踊や歌謡を披露してもらうことにより、地域の方々の異文化に対する理解を得ることを主な目的とする。上町台地に位置する、歴史ある日本語教育施設である大阪日本語教育センター(旧・関西国際学友会日本語学校)が主催することにより今後の永続的な地域との交流の機会のきっかけづくりとする。
内容	●在学留学生により国の民俗舞踊・音楽・歌などを披露してもらい(一般公募で10組程度)それをコンテスト形式で審査員(一般公募と地域団体の代表者)が採点し、優勝・準優勝・3位グループを決定する。 ●スペシャルゲストとして、中国古箏の伍芳(ウーフアン)さんによるミニコンサートを行う(予定) *伍芳(ウーフアン)さんは元留学生で、本センターとの関わりの深い方である。現在プロ古箏奏者としてメジャーデビュー、活躍中。 Http://www.moz.co.jp/wu-fang/

団体名	有限会社 東西屋・ちんどん通信社
代表者名	林 幸次郎
事業のテーマ・タイトル	中学生のための空堀ガイドブック制作
主旨	弊社では、某旅行代理店を仲介し、全国の中学生が修学旅行で大阪を訪れる際、地元の文化を体験学習する要項にならない「ちんどん屋体験学習」の受け入れを行っております。年間訪れる数十校の中学生たちに向けてその実地学習の場所である「空堀」について知ってもらうことを大きな主旨とします。
内容	「空堀ガイドブック」(仮称)は文庫本サイズの十数ページほどの小冊子を予定しています。その歴史や特異な地形の由来、独特な長屋の形成などから現代も息づく魅力あふれる空堀の町並みを中学生にも分かりやすく照会する。

団体名	上町台地からまちを考える会
代表者名	秋田 光彦
事業のテーマ・タイトル	「上町台地web百科事典」協創プロジェクト
主旨	上町台地境界は、歴史、文化、国際交流、福祉・医療、教育、宗教など多彩な魅力にあふれている。それらの魅力は、地域に居住する人のみならず、学ぶ人、働く人、また遊ぶ人など、多様な外来者によって発見され、享受されるものである。そこで、本事業は、上町台地境界あふれる地域資源を掘り起こし、他地域への発信を通して、上町台地境界のさらなる価値の創出に取り組むことを目的とする。具体的には、当会が平成18年度より解説する「上町台地.cotocoto」のさらなる活用にあたる。
内容	平成18年度、当会は、大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所による同志社大学・京都大学との共同研究に協力し、「上町台地.cotocoto」( <a href="http://uemachi.cotocoto.jp">http://uemachi.cotocoto.jp</a> )の構築に取り組んだ(6月のシンポジウムにて詳細を発表)。これは、イベント情報のデータベースを前面に打ち出しつつ、その情報の中に埋め込まれた上町台地における地域資源への情報リンクが自動的に生成されるというものである。本事業では、各種の活動家によって投稿されるイベントに含まれる地域資源情報を「百科事典」のように、まとめあげていく。そのための場の機会として、平成17年10月より実施している「上町台地100人のチカラ！」と題したトークサロンの場と、月1回の「上町台地.cotocoto」編集会議という公開の場を設ける。多様な人々によって、地域資源の「協創」を行う。

団体名	上町台地地歴史資産力研究会「南北平野町」プロジェクト
代表者名	日下部 仁美
事業のテーマ・タイトル	大坂城下のルーツ「南北平野町」の研究と顕彰—上町台地の歴史資産力
主旨	最新の研究成果によると、豊臣秀吉が最初に構想した大坂の城下町は、大坂城と四天王寺をつなぎ、上町台地を南北につらぬく、上町筋そった町割であった。ここに平野郷の住民が移住してまちづくりを行い、「南北平野町」とよばれた(元大阪城天守閣学芸員・内田九州男愛媛大学教授の説)。しかし秀吉の晩年に船場が開発されて現在の平野町が成立し、徳川時代になると、「南北平野町」は大坂三郷から外され、町地から年貢地になった。現在、上町台地に大坂城下のルーツがあるという歴史的事実は、地元ではまったく知られていない。このプロジェクトは、内田氏の研究成果を踏まえて「南北平野町」の痕跡を探り出し、シンポジウム「まぼろしの平野町—大坂城下のルーツ」を開催して、「南北平野町」の存在を顕彰することを目的としている。
内容	1. 歴史調査:元禄年間の「南北平野町絵図」(住まいのミュージアム蔵)や「大阪北平野町諸記録」(大阪市立大学蔵)、大正13年の「大阪パノラマ地図」から、「南北平野町」の町割や住民構成、町の景観などを復元する。 2. 現地調査:「南北平野町」の現地踏査によって、歴史の痕跡を確認する。また、調査やヒアリングの過程で地元との交流を深める。 3. 地元住民との学習会:「南北平野町」に住む、あるいは関心を持つ住民と調査に参加した学生との学習会を開催し、同時に情報を交換する。 4. シンポジウム「まぼろしの平野町—大坂城下のルーツ」:「南北平野町」の存在を広く市民に知らせると同時に、平野町に関係する平野郷、船場平野町の住民との交流会を行う(パネリストは、内田九州男氏、平野郷の住民、船場平野町の住民を予定)。シンポジウムの開催によって、歴史を生かしたまちづくりを進めている平野郷に学び、「南北平野町」HOPEゾーンの可能性も探りたい。

団体名	高津高等学校 地歴部
代表者名	山本 正人
事業のテーマ・タイトル	小学生、中高生向け上町台地学習CDの作成
主旨	郷土学習の一環として上町台地に学ぶ小学生、中高生向けCD教材を作成する。
内容	①上町台地の形成と自然環境 ・砂州の時代から大阪平野の一部として ・上町断層 ②歴史 難波宮—四天王寺—大坂城—江戸期の上町台地(寺町として)—軍都の一角として—現在 ・観光案内や専門的なものでなく、学校向け郷土学習の教材とする ・小学生向けと中高生向けの2作を作成する。